令和５年度　第６回広島市感染症対策協議会

【日　時】　令和６年１月 15 日（月）19:00～20:00
【場　所】　広島市役所 14 階第７会議室
【出席者】　小林　正夫、坂口　剛正、大毛　宏喜、石川　暢久、髙橋　宏明、佐藤　貴、
　　金子　朋子、平賀　正文、増田　裕久、梶梅　輝之、岡野　里香、阿部　勝彦

１　感染症に関する最近の情報

(1)　新型コロナワクチン接種について（資料１ P1～32）

・　令和５年秋開始接種（令和５年９月 20 日～令和６年３月 31 日）を実施中
・　令和５年秋開始接種の接種回数は 235,355 回、うち高齢者は 159,814 回（接種率 51.8%）（令和５年 12 月 24 日現在）
・　現在無料で実施している特例臨時接種は、令和６年３月 31 日で終了し、令和６年４月以降は、65 歳以上の高齢者及び 60～64 歳の一定の基礎疾患を有する者（季節性インフルエンザワクチン接種と同様の対象者）を対象とした定期接種（Ｂ類疾病）として、年１回秋冬に接種を実施する。
・　使用するワクチンは、流行の主流であるウイルスの状況やワクチンの有効性に関する科学的知見を踏まえて、ワクチンに含むウイルス株を選択することとし、当面の間、毎年見直すこととする。

（委員意見）
・　引き続き、ワクチン接種率の向上に努めるとともに、今後のワクチン接種方法について、国の通知を基に適切に対応してほしい。

(2)　インフルエンザの発生状況について（資料１ P33～40）

令和５年第 52 週（12 月 25 日～12 月 31 日）の広島市感染症発生動向調査において、定点当たりのインフルエンザ患者報告数が 19.03 人と注意報レベルの基準である 10 人を上回っており、依然として高い水準で推移している。また、市内学校におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等については、１月 10 日までに 443 件の報告があり、過去 10 年のうち最多の報告数となっている。

令和６年１月５日、広島県は令和５年度 12 月中旬までの季節性インフルエンザワクチンの県内の流通状況をとりまとめた。県内の卸売販売業者による当該季節性インフルエンザワクチンの入荷数は例年と同程度である一方で、出荷数は令和元年度以降で最も少ないことから、県内には十分な在庫数があると考えられる。

例年、学校が再開すると急激に患者が増加し、再び流行が拡大することが予想されることから、引き続き、市民に対して手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防対策を徹底するよう市のホームページ等を通じて呼びかけていく。

（委員意見）
・　今後の発生状況に注意が必要である。

(3)　５種混合ワクチン及び小児に対する肺炎球菌ワクチンの定期接種化等について（資料１　P41～91）

令和５年 12 月 20 日、国において、「第 58 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会」が開催され、従来使用されてきた４種混合ワクチンとヒブワクチンを組み合わせた５種混合ワクチン及び小児用沈降 15 価肺炎球菌結合型ワクチン（以下「15 価小児用肺炎球菌ワクチン」という。）が令和６年４月から定期接種となることが了承された。

①　５種混合ワクチン
・　対象月齢は生後２ヶ月から生後 90 ヶ月に至るまで
・　接種間隔及び方法は、初回接種として 20 日以上の期間をおいて３回皮下又は筋肉内に接種
　追加接種として、初回接種終了後６か月以上の間隔をおいて１回皮下又は筋肉内に接種
・　基本は５種混合ワクチンを使用するが、当面の間は４種混合ワクチン及びヒブワクチンも使用可能

② 15 価小児用肺炎球菌ワクチン

・ 対象月齢は生後 2 ヶ月から生後 60 ヶ月に至るまで

・ 接種間隔及び方法は、初回接種として生後 24 ヶ月に至るまでの間に 27 日以上の期間をおいて 3 回皮下又は筋肉内に接種

・ 追加接種として、初回接種終了後 60 日以上の間隔をおいて、生後 12 ヶ月に至った日以降において、1 回皮下又は筋肉内に接種

・ 基本は 15 価小児用肺炎球菌ワクチンを使用するが、当面の間は 13 価小児用肺炎球菌ワクチンも使用可能

今後、交互接種に係る詳細な取扱いや標準的な接種時期等について議論がなされる予定である。

また、高齢者肺炎球菌ワクチンの定期接種対象者に係る経過措置についても審議が行われた。高齢者肺炎球菌ワクチンは、平成 26 年 10 月に定期接種化され、65 歳の高齢者等を定期接種対象として実施しつつ、令和 5 年度までの経過措置として、70 歳から 100 歳までの 5 歳刻みの対象年齢に該当するワクチン未接種者に対しても接種を実施してきた。こうした中、70 歳以上の接種状況は 65 歳における接種率と同等程度となっていること等の理由から、令和 5 年度をもって、70 歳以上の対象者に係る経過措置を予定どおり終了することとなった。

（委員意見）

・ 市民や医療機関が混乱しないように、丁寧に周知・説明を行い、制度変更を円滑に進めてほしい。

２ １２月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料２、３）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

区分	病　　名	令和 5 年 12 月分 報告日 12/4 ～12/31	令和 6 年 1 月分 報告日 1/1～1/8 現在
２類	結核	11 人 （結核 8 人、潜在性結核 3 人）	
３類	腸管出血性大腸菌感染症	2 人（12/18, 12/22）	
４類	E 型肝炎	1 人（12/6）	
	つつが虫病	1 人（12/5）	
	デング熱	1 人（12/26）	
	レジオネラ症	2 人（12/18, 12/25）	
５類	急性脳炎	1 人(12/15)	1 人（1/4）
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人（12/26）	
	後天性免疫不全症候群	1 人(12/26)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 人(12/18)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2 人(12/18, 12/28)	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 人（12/28）	
	梅毒	11 人（12/6, 2 人(12/8), 12/11, 12/12, 12/14, 12/15, 12/19, 12/25, 12/26, 12/28）	1 人（1/9）

３　全数把握対象感染症の発生状況《公開》

（　）は届出日

４　その他《公開》

次回開催予定日　令和 6 年 3 月 18 日（月）　14 階第 7 会議室

【資料】

資料１：最近の感染症情報

資料２：12 月の感染症の概要

資料３：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（１月分）

令和６年１月１５日

１　患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、12月は6,325人で、前月比1.31とやや増加した。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、流行性角結膜炎は増加、インフルエンザ、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎はやや増加、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎はほぼ横ばい、手足口病、突発性発しんはやや減少した。

(2) 特記事項

● インフルエンザは、第49週（12月4日～10日）をピークに減少傾向である（図1）。しかし、例年、冬休みが終了し学校が始まると流行が拡大する傾向にあり、注意が必要である。手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気など感染予防対策を徹底することが重要である。

● 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、9月中旬から減少が続いていたが、第47週（11月20日～26日）から増加傾向となり、第1週（1月1日～7日）に定点当たり4.11人の報告があった（図2）。全国も増加傾向で推移しており、注意が必要である。手洗い、マスクの効果的な場面での着用、換気など、一人一人が身近でできる感染対策を続けることが大切である。

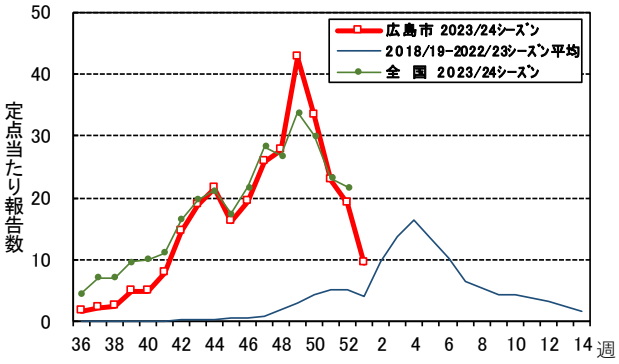

図１ インフルエンザの流行状況

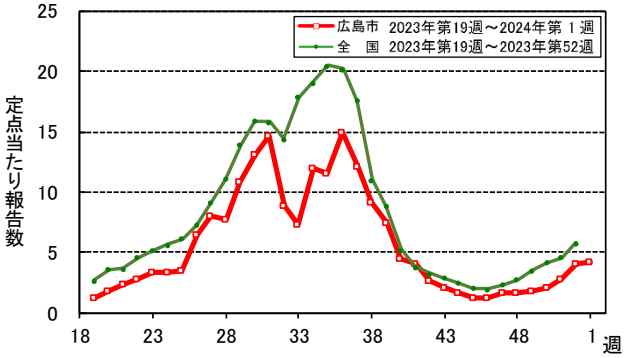

図２ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況

● 咽頭結膜熱は多い状況が続いており、第52週（12月25日～31日）に定点当たり4.52人の報告があった。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなどの感染予防対策が重要である。

● Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は多い状況が続いており、第52週に定点当たり3.87人の報告があった。手洗いの励行、咳エチケット、患者との濃厚な接触を避けるなどの感染予防対策が重要である。

● 流行性角結膜炎は多い状況が続いており、第52週に定点当たり2.50人の報告があった。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなどの感染予防対策が重要である。

● 梅毒の2023年累計報告数は272件（速報値）と、1999年の感染症法施行以降の最多であった2022年（317件）に次いで多かった。また、2016年から2021年の間報告のなかった先天梅毒が、2022年の2件に続き、2023年も1件報告された。年齢別では、男性は20歳代から50歳代の幅広い年代に多く、女性は20歳代が最も多かった。梅毒は治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあり、妊婦が感染すると流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。感染予防と早期発見・早期治療が重要である。

(3) １２月の１類～５類感染症（全数報告）患者発生数

１類感染症：なし
２類感染症：結核11件（患者:8件、潜在性結核:3件）
３類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
４類感染症：Ｅ型肝炎 1件、つつが虫病 1件、デング熱 1件、レジオネラ症 2件
５類感染症：急性脳炎 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 2件、梅毒 11件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件

(4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)・・・【流行始まり】
インフルエンザ、咽頭結膜熱、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎【流行中】

２　検査情報

12 月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	10 月	1 人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	11 月	2 人
感染性胃腸炎	エコーウイルス 25 型	8 月	1 人
	アストロウイルス	10 月	1 人
ヘルパンギーナ	エンテロウイルス 71 型	10 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 3 型	10 月	1 人
	アデノウイルス 56 型	10 月	1 人
	アデノウイルス 56 型	11 月	4 人
その他の疾患(不明熱)	パレコウイルス 3 型	9 月	1 人

13 人の患者から 8 種類のウイルス 13 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス 56 型 5 株、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型 2 株、アストロウイルス、アデノウイルス 3 型、インフルエンザウイルス A(H3)型、エコーウイルス 25 型、エンテロウイルス 71 型、パレコウイルス 3 型が各 1 株であった。

5類感染症定点情報
（令和5年12月解析分）

1．週報対象（第49週～第52週）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↗	4,245	117.92	流→
2	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	↗	385	10.70	流↗
3	RSウイルス感染症		4	0.17	
4	咽頭結膜熱	↗	533	23.17	流→
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	377	16.39	流→
6	感染性胃腸炎	↗	590	25.65	流→
7	水痘		13	0.56	
8	手足口病	↘	66	2.87	
9	伝染性紅斑		1	0.04	
10	突発性発しん	↘	16	0.69	
11	ヘルパンギーナ		10	0.44	
12	流行性耳下腺炎		4	0.17	
13	急性出血性結膜炎		1	0.13	
14	流行性角結膜炎	↗	58	7.25	流→
15	細菌性髄膜炎		1	0.14	
16	無菌性髄膜炎		1	0.14	
17	マイコプラズマ肺炎		－	－	
18	クラミジア肺炎		－	－	
19	感染性胃腸炎（ロタウイルス）		－	－	

2．月報対象（12月）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↗	35	3.89
2	性器ヘルペスウイルス感染症		11	1.22
3	尖圭コンジローマ		8	0.89
4	淋菌感染症		12	1.33
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↗	20	2.86
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		－	－
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		－	－

発生記号

前月と比較しておおむね1：2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1：1．5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1：1．1～1．5の増減	↗	↘
ほぼ横ばい（発生件数少数のものを含む）	→	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数（令和5年12月分）

第49週～第52週(12月4日～12月31日)報告分

類型		疾　患　名	広島市		全　国	
			報告数	累積	報告数	累積
一類	1	エボラ出血熱	－	－	－	－
	2	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	3	痘そう	－	－	－	－
	4	南米出血熱	－	－	－	－
	5	ペスト	－	－	－	－
	6	マールブルグ病	－	－	－	－
	7	ラッサ熱	－	－	－	－
二類	8	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	9	結核	11	130	1,215	14,694
	10	ジフテリア	－	－	－	－
	11	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	－
	12	中東呼吸器症候群	－	－	－	－
	13	鳥インフルエンザ（H5N1）	－	－	－	－
	14	鳥インフルエンザ（H7N9）	－	－	－	－
三類	15	コレラ	－	－	－	2
	16	細菌性赤痢	－	－	5	47
	17	腸管出血性大腸菌感染症	2	16	158	3,811
	18	腸チフス	－	－	2	38
	19	パラチフス	－	－	－	9
四類	20	E型肝炎	1	3	52	552
	21	ウエストナイル熱	－	－	－	－
	22	A型肝炎	－	－	5	55
	23	エキノコックス症	－	－	－	13
	24	黄熱	－	－	－	－
	25	オウム病	－	－	－	8
	26	オムスク出血熱	－	－	－	－
	27	回帰熱	－	－	2	23
	28	キャサヌル森林病	－	－	－	－
	29	Q熱	－	－	1	1
	30	狂犬病	－	－	－	－
	31	コクシジオイデス症	－	－	－	4
	32	エムポックス	－	1	7	225
	33	ジカウイルス感染症	－	－	1	2
	34	重症熱性血小板減少症候群	－	2	2	133
	35	腎症候性出血熱	－	－	－	－
	36	西部ウマ脳炎	－	－	－	－
	37	ダニ媒介脳炎	－	－	－	－
	38	炭疽	－	－	－	－
	39	チクングニア熱	－	－	－	7
	40	つつが虫病	1	6	129	434
	41	デング熱	1	3	12	175
	42	東部ウマ脳炎	－	－	－	－
	43	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）	－	－	－	－
	44	ニパウイルス感染症	－	－	－	－
	45	日本紅斑熱	－	3	1	501
	46	日本脳炎	－	－	－	6
	47	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－
	48	Bウイルス病	－	－	－	－
	49	鼻疽	－	－	－	－
	50	ブルセラ症	－	－	－	2
	51	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	－
	52	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	－
	53	発しんチフス	－	－	－	－
	54	ボツリヌス症	－	－	－	－
	55	マラリア	－	－	4	36
	56	野兎病	－	－	－	－
	57	ライム病	－	－	－	29
	58	リッサウイルス感染症	－	－	－	－
	59	リフトバレー熱	－	－	－	－
	60	類鼻疽	－	－	－	－
	61	レジオネラ症	2	34	153	2,271
	62	レプトスピラ症	－	－	－	49
	63	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－
五類	64	アメーバ赤痢	－	5	43	485
	65	ウイルス性肝炎	－	6	17	242
	66	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	－	12	154	2,092
	67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－	－	3	56
	68	急性脳炎	1	6	80	643
	69	クリプトスポリジウム症	－	－	5	16
	70	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	3	18	167
	71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	131	941
	72	後天性免疫不全症候群	1	11	86	943
	73	ジアルジア症	－	－	3	39
	74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	4	58	559
	75	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	5	21
	76	侵襲性肺炎球菌感染症	2	18	262	1,959
	77	水痘（入院例に限る。）	－	5	37	400
	78	先天性風しん症候群	－	－	－	－
	79	梅毒	11	272	1,118	14,906
	80	播種性クリプトコックス症	－	－	14	171
	81	破傷風	－	－	10	109
	82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－
	83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	11	2	114
	84	百日咳	－	2	87	1,009
	85	風しん	－	－	－	12
	86	麻しん	－	－	3	28
	87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	2	15
新型インフル	88	新型コロナウイルス感染症　注1）注2）	－	371,198	－	33,778,575

注1）全国データは、厚生労働省HPから引用（空港検疫及びチャーター便帰国者を除く(2023年5月8日時点速報値)）。
注2）広島市、全国の累積は2020年から2023年5月7日までの合計。